

報告者氏名：中西貴洋 所属：愛知県立みあい養護学校 記録日：2014年2月24日

【対象者の情報】

○ 学 年 高等部第2学年 Aさん

○ 障害名 自閉症 知的障害

○ 障害と困難の内容

Aさんは、障害のために以下の困難さがありそのために周りからの評価が低くなりがちである。

- ・物事を整理して説明するのが苦手。→ コミュニケーション能力が低いと評価されがち。
- ・作文が苦手。→ 文章力が低いと評価されがち。
- ・覚えることが苦手。→ できない、分かっていないと評価されがち。
- ・物事への関心が低い。→ 意欲が低いと評価されがち。

そのため、自分に自信がもてず、指示を待って行動したり、人との関わりに消極的になったりすることが多い。

【活動目的】

○ 当初のねらい

タブレット端末をAさんの「苦手」を補うツールとして活用することで、周囲からの評価を高め、自己肯定感、自己効力を高める。また、情報収集ツールとして活用し、社会経験を広げていく。

○ 実施時期

平成25年6月～平成26年3月

○ 実施者

高田直子 中西貴洋 白濱菜穂子

○ 実施者と対象児の関係

担任、iPad活用促進プロジェクトチーム（PP団）メンバー

【活動内容と対象児の変化】

○ 対象児の事前の状況

- ・簡単な質問に答えることができるが、状況を詳しく説明したり、会話を続けたりすることが難しい。
- ・自分から周りの人に話しかけることは少ない。
- ・簡単な漢字交じりの文章を読むことができるが、整えて文字を書くことは苦手で時間がかかる。
- ・手先が器用で細かな作業も丁寧にできるが、一つ一つの活動に細かな指示が必要であることが多い。
- ・指示どおりに活動することができるが、進んで行動したり、自分でスケジュールを組み立てて行動したりすることが難しい。
- ・一人で出かけたり、買い物をしたりする経験がほとんどない。

○ 活動の具体的内容

以下のツールとしてタブレット端末を活用する。

- ① コミュニケーション力を高めるツール → SNS (FaceBook) を利用
- ② 記憶を補助するツールとして → 動画、写真、アプリ「ワーク Watch」
- ③ 生活体験を広げるツールとして → アプリ「クックパッド」、「乗り換え案内」
「GoogleMaps」 「Safari」等を利用

アイコン	アプリ名	発売元	使用目的
	Facebook	Facebook. Inc	Aさんに出来事や気持ちなどを投稿してもらい、グループ内で共有。フィードバックする。
	ワークWatch	KUNKEN SUSTEM Co.,Ltd	作業学習用アプリケーション。手順や行程を示し、主体的な活動をサポートする。
	クックパッド	COOKPAD Inc.	レシピ検索アプリケーション。好きな料理の作り方を知る。実際に料理してみる。
	乗換案内	Jorudan Co.,Ltd	電車の時刻表、乗り継ぎや運行状況を調べる。
	Google Maps	Google. Inc	目的地までの道順を確かめる。周りの地形や施設を調べる。
	Safari	Apple. Inc	バスの時刻表を調べる。外出先の情報を調べる。分からない言葉を検索する。
	メール	Apple. Inc	端末での文字入力に慣れる。写真添付の方法を知る。

○ 活動の経過

- ◇ 5月……………・ iPadを使って実際に使って操作に慣れる。
- ◇ 6月……………・ 自宅へ持ち帰りを始める。家庭で自由に使って操作に慣れる。
 - ・ 小学部教員とメールのやりとりを始める。
 - ・ Facebook（以下F Bと表記）で、本校のI C T活用推進プロジェクトチームメンバーと対象生徒でクロードのグループを作成。書き込みを開始。
- ◇ 9月……………・ 作業の準備の手順を動画で撮影。
- ◇ 10月……………・ アプリ「クックパッド」を使用。
- ◇ 11月……………・ 公共交通機関の時刻表をアプリやインターネットで検索。

○ 活動の様子

①コミュニケーション力を高めるツールとしての利用について

■ 作業学習について

- ・ 産業現場等における実習の出来事（7月、10月）

近隣の福祉施設における実習の様子をF Bに投稿した。コメントに対しても一つずつ丁寧に答えていた。



図1 産業現場等における実習に関する投稿

■ 調理についての書き込み

- ・ 学校でカレーライス作りを行い、その様子を端末で動画で保存した。家庭で学校での活動を振り返りながらカレーライスづくりをしたことを投稿した。（7月）
- ・ カレー作りのあと、家庭でいろいろな調理に取り組み、その様子を投稿した。（7～8月）



図2 調理に関する投稿

■外出についての投稿

- ・校外学習での外食体験、図書館見学の様子を投稿した。(11月)
- ・市外での演奏会に出かけた様子を投稿した。(12月)
- ・家族で空港に出かけた様子を投稿した。(1月)



図3 外出に関する投稿

② 記憶を補助するツールとしての利用について

■調理実習

- ・学校での調理実習を動画で撮影し、家庭で振り返る。(7月)



図4 家庭で作った料理



図5 動画を撮影するAさん

■作業学習

- ・作業準備の様子を動画で撮影し、手順確認に使用した。前日に家庭でも視聴するようにした。(9月)
- ・作業の反省をするために、作業の様子を担当教員が端末で撮影した。(9月～)
- ・作業の手順をアプリ「ワークWatch」で提示することを計画した。(10月)

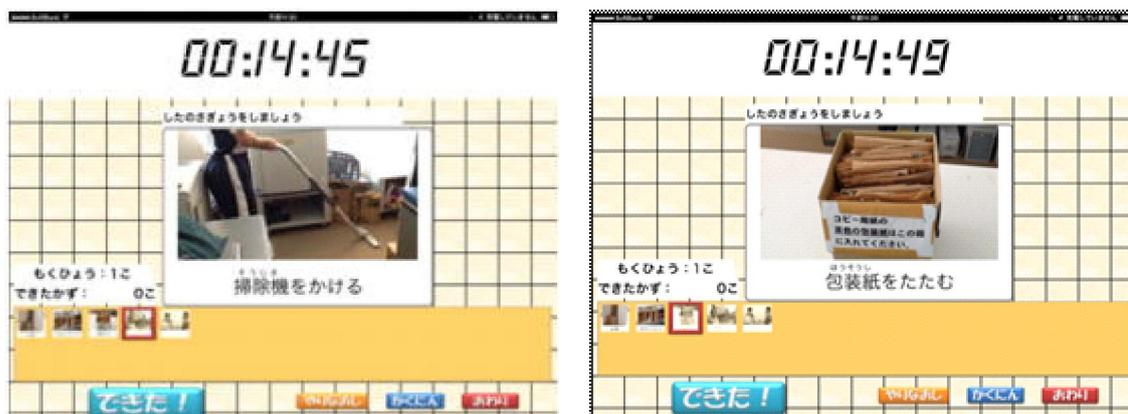


図6 アプリ「ワークWatch」の画面

③ 生活体験を広げるツールとしての利用について

- ・校外学習の事前学習で、私鉄バスのHPで運賃や時刻を調べた。(11月)
- ・インターネットでの検索の他、「乗換案内」などのアプリも使用した。(11月)
- ・担任が出演する演奏会に出かける計画を立てた。(12月)



図7 端末で時刻表を調べるAさん

○ 対象児の事後の変化

① コミュニケーション力を高めるツールとしての利用について

- ・FBへの投稿は、初めは担任から進められて投稿していたが、3学期には自分から投稿することが増えた。
- ・FBへの投稿は、作業の実習や校外学習など学校での出来事がほとんどであったが、家庭でのことに関する投稿が増えてきた。

② 記憶を補助するツールとしての利用について

- ・ビデオを見ながら同じ料理を家庭で作れた。また、家庭での調理の機会が増えた。
- ・作業の準備を事前に動画で確認することでスムーズに活動できた。
- ・作業の様子を動画で振り返ることで自分の行動が客観的に分かり、反省のポイントがつかめるようになった。
- ・アプリ「ワークWatch」は、授業担当者と連携がうまくできず継続的な使用に至らなかった。

③ 生活体験を広げるツールとしての利用について

- ・インターネットでの検索は徐々にスムーズにできるようになった。
- ・市外の演奏会への外出は計画どおりに実行できた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○ 主観的気づき

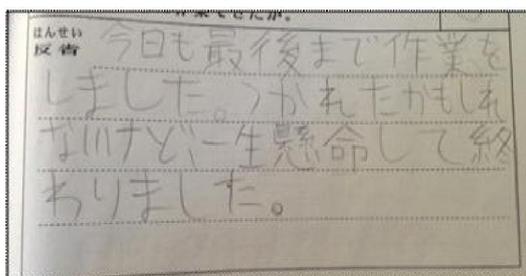
- ① 筆記に苦手意識があり文章力の評価が低かったAさんだが、端末のソフトウェアキーボード

での入力はスムーズであることがわかった。

- ② 視覚的な手がかりがあると理解がしやすく、考えをまとめたり見通しをもって行動したりすることができる。
- ③ F Bで担任や他の教員とのやりとりをすることで家族以外の人とのコミュニケーションを意識することができた。

○ 気づきに関するエビデンス

- ① 同日に記録した実習の感想が図8である。



今日で実習は終わりました。つつをふく作業と、生地並べと生地を押しつける作業をして作業は終了しました。2週間大変でしたけど、一生懸命してやっと終わりました。

図8 実習の感想 (左：記録ノート 右：F Bへの投稿)

実習日記の記録では、筆記より端末での入力の方が文字量が多い。入力にかかった時間も筆記より短い。Aさんは、漢字を思い出すことや文字を整えて書くことに時間がかかってしまい、疲弊して長文を作ることが難しくなってしまう。キーボードによる入力は、漢字変換や予測入力のサポートがあり、校正も簡単にできるためスムーズに作文ができたようだ。また、慣れるほどに入力時間が短縮できる。これまで文章力が低いと思われることが多かったAさんだが、予想以上の力を発揮することができた。

- ② 校内作業では、これまで口頭の指示で活動しており、手順を忘れてたり途中で混乱したりすることもあり、その都度指示を待つことがあった。作業の手順をiPadで映像で確認することで、自分が使う道具や机の配置、掃除など準備や片付けで何をすべきかしっかり理解し、スムーズに作業へ参加できるようになった。視覚的な手がかりの方が記憶に残りやすいだけでなく、忘れたときも自分で確認できる安心感をもつことができたようだ。
- ③ 今回、F Bのグループには、担任の他、高等部職員1名、小学部職員が10名が参加した。高等部から本校に入学したAさんが、他部の教員とかかわりをもつのは今回が初めてである。初対面の人とは、緊張してしまうことが多いAさんだが、顔を合わせずやりとりができるF Bは、抵抗が少なかったようだ。自分から話しかけることのほとんどないAさんだったが、担任にF Bの話題について話しかけることができるようになってきた。また、F Bでやりとりをした教員の一部とは、F Bの話題に関して直接会話を交わすこともあった。

○ その他のエピソード

- ① Aさんへのアンケート

Aさんは、端末を使うことは「思ったより簡単だった」と答えており、「紙に鉛筆で書くよりアイパッドで書く（入力する）のが好き」としている。また、10カ月間端末を使った感想は、「アイパッドをつかって、ぼくにもできそうだと思います。」と答えた。当初は「難しそうだ」と言っていたAさんだが、徐々に自信をつけていった様子が伺えた。

② 保護者へのアンケート

今回の取組について保護者は以下の感想を寄せた。

- ・分からないことがあると、インターネットですぐに調べられて便利でした。
- ・調理時の手順なども文章だけだとイメージしづらいときがありますが、目で映像を見るとわかりやすいようです。忘れていたことも思い出しやすいようです。
- ・FBで、実習の様子を写真に撮って報告することができ文章を書く勉強になりました。家族以外の人とのコミュニケーションを意識することができたように思います。
- ・出かけた場所をネットで調べたり、アクセス方法、電車の時刻を調べたりする経験ができてよかったです。まだダイヤ検索などは慣れていませんが、何回もやっていると予定を見通して、外出の時間の組み立てなどができるようになると思います。

端末の利用には、保護者の協力と理解が不可欠である。今回は、保護者に家庭でしっかりサポートしていただくことができた。

③ 教員へのアンケート

これまでのAさんを知る高等部職員へのアンケートによると、AさんがFBへの投稿ができると思っていなかった者が8割だった。また、Aさんが投稿した内容については、筆記でのイメージに比べて文章表現力が高いと感じた職員が過半数であった。

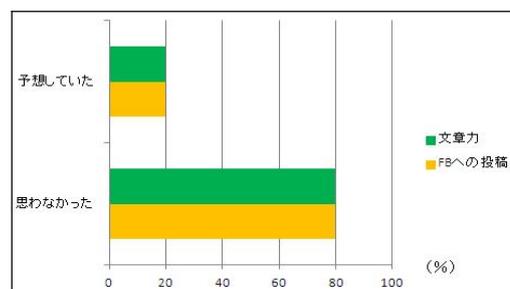


図9 教員へのアンケート結果

【今後に向けて】

- ・今回の実践では、Aさんの周囲からの評価を上げ、自己肯定感、自己効力感を高めることをねらいとした。教員や本人へのアンケート結果から、周囲のAさんを見る目が多少変わり、自身も「自分にもできる」という気持ちが芽生えてきたように思う。今回は、授業での活用場面が少なかったため、今後は授業でも積極的に活用していきたい。
- ・FBでの取組は、生徒も含めたグループなど範囲を広げていきたい。また、情報モラルやセキュリティに関する指導も併せて考えていく必要があるだろう。
- ・外出経験については、短距離の外出を積み重ね、買い物や図書館など活動範囲を広げていきたい。経験が広がることで、興味・関心も広がり「やってみたい」が生まれてくると思う。同時に、外出が全てではなく、インドアでもインターネット検索やアプリを活用してAさんの世界を広げていけるとよいと考える。
- ・作業の時間などでは、端末で作業予定を立てたり、手順を確認したりすることで教師の指示がなくても活動できる場面が見られた。しかし、「(卒業後の)現場では、端末など使用できない。現場で対応できる力を育てるべきだ。」との意見もあった。職員間の共通理解、進路先との連携などの課題についても検討していきたい。